

自己点検・自己評価

《評価とその内容》

- 5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない
2:取り組みを検討中 1:改善が必要

1. 教育理念・目的等

1	理念・目的・育成人材像は定められているか	4.4
2	育成人材像は各学科の関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4.1
3	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4.1
4	学校の将来構想を抱いているか	3.4

〈現状と課題〉

教育理念・目的・育成人材像等は明確に定められているが、多種多様な人材で合わせた育成が必要になってきているため、今後も全教職員が連携協働し、教育活動に取り組んでいかなければならない。

2. 学校運営

5	法人の組織運営を適切に行っているか	3.7
6	学校運営のための組織を整備しているか	4.0
7	意思決定システムを整備しているか	3.2
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.1

〈現状と課題〉

学校運営について適切に行っているが、情報システム化については組織・個人としても、目まぐるしく変化する環境や技術に適応できるように、能力を向上させる必要がある。

3. 教育活動

9	理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4.2
10	学科ごとに修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	4.2
11	教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4.4
12	シラバス（授業計画書）は学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と一致しているか。	4.3
13	授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫・改善しているか。	4.1
14	未履修科目の原因分析を教員側と学生側とで実施し、対応策を講じているか。	3.9
15	学生に修了認定のための評価基準と方法を公開しており、かつ、評価が公平性・妥当性が保たれているか。	4.1

16	実習目標に沿った施設の選択及び学習環境・指導体制が整っているか	4.2
17	実習指導者と教員の役割を明確にしているとともに、実習指導者と教員の協働体制を整えているか。	4.6
18	実習において、学生が関係したインシデント等を把握・分析しているとともに、改善策を講じているか。	4.1
19	成績評価・修了認定基準を明確化し、適正に運用しているか	4.3
20	資格・免許取得の指導体制はあるか	4.2
21	資格・要件を備えた教員を確保しているか	4.4
22	教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	3.6
23	教職の組織体制を整備しているか	4.0

〈現状と課題〉

教育理念に基づいた教育活動を行い、授業内容や方法についても、学生に分かりやすい工夫を進めている。一方で、資格取得支援や、教員確保など、教員の質や、負担の軽減の観点においては、継続的な改善が必要である。

又、留学生が増え、学生のレベルに合うように、工夫、対策、対応を継続していかなければならない。

4. 学生支援

24	進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	3.8
25	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4.1
26	退学率の低減が図られているか	3.6
27	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	4.3
28	保護者と適切に連携しているか	4.0
29	卒業生への支援体制はあるか	3.5
30	（日本語科）日本を理解するための支援が適切に行われているか	3.9
31	（日本語科）入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	4.0
32	（日本語科）我が国の法令を遵守させる指導を行っているか	4.1

〈現状と課題〉

担任や、各教科の教員と連携をとりながら、学生の状況に合わせた個別対応を行っている。必要な時は、保護者と連絡をとりながら協力体制を整え、学生を支えている。今後も学生の状況に合わせた対応が必要である。

5. 学習成果

33	就職率の向上が図られているか	4.3
34	資格・免許取得率の向上が図られているか	4.2
35	卒業生の社会的評価を把握しているか	3.4

〈現状と課題〉

就職支援や、資格取得に向けた体制は整備されており、学生一人一人に応じた支援が行われている。一方で、学生間で学習意欲の維持に差があるため、理解度や進路希望に応じた支援を強化していく必要がある。

6. 教育環境

36	教育上の必要性に対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3.2
37	防災に対する組織体制を整備し、適切に運営しているか	3.4
38	学内における安全管理体制を整備し、適切に適用しているか	3.7

〈現状と課題〉

教育上に必要な施設・設備・用具等は整っている。教員・学生とも、物を大事に取り扱うことを意識しているが、長年の使用感は否めない。教育の場として防災等に留意し安全な環境・場所を提供することを意識しなければならない。

7. 学生募集活動

39	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4.1
40	学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか	4.2
41	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4.5
42	経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4.5
43	入学辞退者に対し授業料等について適切な取り扱いを行っているか	4.5

〈現状と課題〉

限られた範囲の中で、広報部を中心として学生募集を行っている。社会に必要とされる専門性の高い人勢を育成するために、介護の魅力を伝え、今後も教職員が力を合わせて学生募集活動を行っていく必要がある。

8. 財務

44	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3.5
45	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.6
46	財務について会計監査が適正に行われているか	3.6
47	財務情報公開の体制整備はできているか	3.6

〈現状と課題〉

財務について会計監査が適正に行われている。

福祉の業界で働く希望の学生数減により財務状況は厳しい面が続いているが、今後も継続した学生募集をしていかなければならない。

9. 法令等の遵守

48	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4.5
49	個人情報に関し、その保護のための対策がとられている	4.5
50	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に務めているか	3.6

5 1	自己点検・自己評価結果を公開しているか	4.5
5 2	関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	4.5

〈現状と課題〉

法令、設置の遵守と運営が適切になされており、関係省庁への定期報告も遅れることなく実施している。

今後も、法令、遵守を全職員が意識していくことが必要である。

10. 社会貢献

5 3	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3.6
5 4	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	3.6

〈現状と課題〉

社会人向けの講習会を開催するなど、特性を生かした社会貢献は行っている。

学生の活動機会や、地域との連携には、今後の広がりが期待されるため、今後、学生が自主的に社会貢献活動への参加できる環境づくりを進めていくことが課題である。

令和8年度 広島福祉専門学校
学校関係者評価報告書

1. 学園建学の精神

学校法人中川学園は、『愛と信念』の校訓の下に、福祉教育を実践する教育機関である。

学生・生徒に対する教育方針は、『1. 愛情、2. 厳正、3. 信頼』である。すなわち、教職員は惜しみない愛情をもって生徒に接し、正しいことは妥協せず厳しさをもって教え、それによって教職員と学生・生徒との間に信頼関係が芽生える教育を目標としている。

2. 広島福祉専門学校 の目標

中国四国地方では最も伝統のある職業教育専門校として、「愛と信念」の校訓の下、思いやりに満ちた福祉専門職を養成し、もって地域福祉に貢献することを目的とする。

3. 学校自己点検・自己評価報告書について

評価は1～5点で、

5：適切、4：やや適切、3：どちらともいえない、2：やや不適切、1：不適切

学校自己点検・ 自己評価報告基準	学校自己点検・自己評価報告基準についての評価点の平均		
	自己評価の 結果が適切か	改善に向けた 取り組みが適切か	今後の改善方策が 適切か
1. 教育理念・目的等	4.0	3.5	3.5
2. 学校運営	3.5	3.5	3.5
3. 教育活動	4.2	4.0	4.0
4. 学生支援	4.0	4.5	4.5
5. 学習成果	4.0	3.7	3.7
6. 教育環境	3.4	3.4	3.4
7. 学生募集活動	4.3	3.5	3.5
8. 財務	3.6	3.0	3.0
9. 法令等の遵守	4.5	4.5	4.5
10. 社会貢献	3.6	3.6	3.6

4. 講評

学生募集が学校にとり、一番大切な業務である。広報活動において積極的に取り組んでおり、自己評価も高い。

近年、留学生が増え、定員を満たしているが、最終的な目標は国家資格取得である。学生の中には、日々の授業においてカリキュラムの内容を理解するには、難しい現状がある。学校は、一人一人に正面から向き合い、どうすれば理解できるのか、問題点は何かを考え、主体的に取り組んでおり、自己評価も高い。

指導の前提として、対応する留学生の国民性・文化を理解することがより一層望まれる。地道な努力がこれからの国際交流につながることを考えられる。

今後の課題として、これまでの改善方策がマンネリ化していることは否めない。これからは、現状を見極め、具体的に実現することが望まれる。

以上